

**港区の施策・事業等について**  
**部会で出された主なご意見と区役所の対応・考え方**

福祉部会（令和元年度第2回：令和元年10月29日開催）

番号	意見	区役所の対応・考え方
	<p>いきいき百歳体操は、人気がありどこの会場も満員になっていると聞いた。デイサービスに行けない人が活用するなど、非常に良い取り組みだと思うので、会場を増やす・1会場で2パターンの曜日で行うなど工夫して、開催日を増やすことはできないか。</p> <p>また、介護施設等でも普及する活動をしてほしい。</p>	<p>港区でも、健康でいきいきとした生活を送れるように支援することを目指し、いきいき百歳体操の普及活動に取り組んでいます。</p> <p>しかしながら、実施するためには一定以上の面積の会場が必要なことから、港区だけでなく大阪市全体として新規の会場探しに苦慮しているところです。</p> <p>港区としては、大阪市が目標としている高齢者2千人当たり1ヶ所である22ヶ所を上回る27ヶ所の会場で開催しており、百歳体操やラジオ体操など介護予防に資する活動の実施率は市内で2番目に高いものとなっています（平成30年度末現在）が、今後も普及活動を続けていきたいと考えています。</p> <p>また、介護施設においては、制度上、大阪市内で購入した用具を使用できないなどの制限がありますが、検討してまいります。</p>
	<p>現在、大腸がんでの死亡率が高い状況にあるが、検診の受診率が上がらないのは、結果が出るまでに3回の通院が必要となる医療機関もあり面倒など制度的な問題があるので、容器を封筒に入れて郵送するなど通院回数を減らすよう検討してはどうか。</p>	<p>保健福祉センターで申請された場合は、受診通知等と容器を同時に送付しており、検査結果によってお越しいただく回数は異なりますが、「異常なし」の場合は検診日の1回のみ、「異常あり」の場合でも検診日と紹介状の交付時の2回となっています。</p> <p>一方で、以前本市でも実施していたような、大腸がん検診の対象者全員への容器の郵送を区役所として実施することは費用の面から困難です。</p>
	<p>発達障がい児の養育者支援事業であるピアカウンセリング等の周知方法はどのようにしているのか。</p> <p>できれば学校や医療機関での周知も検討してほしい。</p>	<p>ピアカウンセリングは、広報みなとや区ホームページ等を中心に周知をしています。</p> <p>発達障がいについて学ぶ講演会を開催し、参加いただいた方への案内や、家庭児童相談員や心理相談員による日頃の相談の中で個別に案内している場合もあります。</p> <p>今後も支援を必要とされている方に情報がきちんと届くよう、学校や医療機関での周知も含め、より効果的な情報の発信や提供について検討します。</p>

<p>地域包括ケアシステムについて、高齢者だけではなく、重度医療ケアが必要な方やそのご家族も苦しんでいるので、対象として考えてほしい。</p>	<p>厚生労働省が地域包括ケアシステムの構築を言い出した当時は、高齢者が中心となっていましたが、現在は高齢者のみではなく、障がい者・子どもも含めて総体的に取り組むものであるという認識を持っています。</p>
<p>福祉部会の委員に港区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会の代表がないのはなぜか。</p>	<p>港区歯科医師会からご推薦いただいております 讃井委員におかれましては、港区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会のご代表でもありますが、名簿上の記載が漏れておりましたので追記させていただきます。</p>

こども青少年部会（令和元年度第2回：令和元年11月7日開催）

番号	意見	区役所の対応・考え方
	<p>家庭学習が大事と言われる中で、子ども達の読解力が衰えていると感じる。</p> <p>いきいきの指導員として、小学生の読解力や計算力の低下を肌で感じる。学校でこれらを向上させる工夫は。</p>	<p>読解力や計算力は大阪市全体の課題と考えています。そうした中で学校全体での工夫の説明については、大阪市教育委員会には説明を出前するキャラバン隊があるので、ぜひ活用してください。</p> <p>各学校では授業時間をやり繰りしながら、読解力、計算力を付けさせる取組を行っています。</p> <p>教育委員会の施策として学力向上サポート訪問として、市内全校に指導主事や教育センターの教育指導員が、読解力や計算力を付けさせるために授業の改善指導をし、各校で取組を進めているところです。</p>
	<p>今後、小学校では英語の授業が始まっていく中で、担任の先生が全教科を教えていただく小学校の体制はどうなるのか。専門の先生を配置されるのか。</p>	<p>大阪市教育振興基本計画では、英語イノベーションとして「ネイティブ・スピーカーの活用や、特に教員の英語力・指導力を向上させるべく、大学と連携して教育ICTを活用した新しい研修システムなど、多様な研修方法を構築」していくこととしており、学校においては「ブロックごとや中学校区ごと等で公開授業・研究討議を行うシステムの構築」と「効果的な校内研修の実践」に取り組むこととしています。</p> <p>近隣の学校に出向き英語の授業をして「見せる」ことで各校の先生の授業力を向上させるため、中学校の英語の免許を持っている専科の小学校教員を配置している小学校は、大阪府で現在、3校ですが、このうち1校は波除小学校であり、区内の他の小学校にも出向いています。</p> <p>この外、大阪府では、小学校と兼務発令を受けた英語の先生に、中学校から小学校へ来ていただいています。</p> <p>こうしたさまざまな形で、英語の授業に対応していこうとしているところです。</p>

<p>市青指連絡協議会では、各区で各小学校ごとの地域に分かれて夜間巡視を行う指導ルーム活動を主にやっている。</p> <p>指導ルームでは、毎月25日の夜9時に定めた形で実施しているが、子ども達は「指導員が回ってくるぞ」とSNSで連絡しあい巡視が終わってから集まるなど、いたちごっこの状態であり、私たちの目から逃げて外れていくことで、指導できていないこともある。</p> <p>そのため、子どもの進化に合わせて我々の活動も進化しようとしている。</p> <p>また、青少年指導員は指導研修も受けているので、地域の人たちが子ども達に声をかけたりする際の声のかけ方や接し方などについても、区政会議での中で提案していきたい。</p>	<p>青少年指導員、青少年福祉委員の皆さまには、日ごろから、青少年の健全育成にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。</p> <p>SNSを始め、青少年を取り巻く環境の変化に合わせた指導ルーム活動に期待いたしています。また、区政会議こども青少年部会においても大所高所からのご意見をお願いします。</p>
<p>中学校の不登校支援の方策としての学生ボランティアはどのように集めているか。</p> <p>また、どのように関わっているのか。</p>	<p>大学の先生とのネットワークの中で、教員を目指していたり、心理学を専攻している大学生を紹介していただいている状況です。教員を目指している学生には、講師採用も含めて採用試験のサポートをすることとセットで来てもらっている状況です。</p> <p>関わり方については、初めは担任の先生と一緒に家庭訪問をして人間関係を十分に構築し、一定の時間を勉強など一緒に過ごしながら下校していくような関わり方をしている状況です。</p>
<p>港区で実施している塾代助成を受けている生徒の数は。</p>	<p>塾代助成事業は大阪市全市の事業であり、区内で塾代助成カードの交付を受けている生徒は9月末で555名、このうち4月から9月までに実際に利用した生徒は446名です。</p> <p>なお、区としては、塾代助成事業は4月から9月までのカード、10月から翌年3月までのカードと、更新が必要であることから、新規申込や更新の勧奨といった広報にも努めています。</p>

<p>私の子どもが大阪府学生科学賞に取り組むにあたって、泉南郡岬町から淡路島南部までの大阪湾の各漁港を巡って購入したアジの内臓に含まれるマイクロプラスチックの量を調査してきた。</p> <p>最初は臭い汚いと嫌がっていたが、途中から自ら進んで測定するようになった。</p> <p>一例だが、アジの解剖を通して、生物の構造だけでなく命の大切さやチャレンジする姿勢など非常に多くのことを学んでいる。</p> <p>点数で評価される勉強が中心になっているが、いろいろなことを取り入れることで、まだまだ学べる可能性があることや見過ごしていることがあるのではないか。</p>	<p>保護者が子どもにさまざまな体験をさせることは極めて重要なことです。</p> <p>学習のモチベーションは体験によって生まれるものであるので、学校においても子ども達にさまざまな体験をさせています。</p> <p>これまでも大阪市の学校現場でも努力しながらも学力が低いと言われていることを踏まえ、今後のアプローチの仕方として「さまざまな体験をすることで『国語は大事だ』『算数は大事だ』といったことに気付かせること」が挙げられます。</p> <p>こうしたことで、さまざまな「力」に結びつけていくことが学力向上のカギになると考えています。</p>
<p>港晴小から半数ほどが接続校でない港中に、またこの外、私立中に行った。選択制もあり、港晴での地域活動には中学生がいない。</p> <p>地域の子どもの数が少なくなるのは大問題であり、さらにその少ない中で学校選択制で一層、地域に子どもがいなくなるのも問題である。</p> <p>新しい大きな中学校を2つ建てて集約するといった発想にたてないのか。</p> <p>直近の課題は学校選択制であるということと、もう一つ大事なものは教育力である。</p> <p>教師も子どもも伸びる学校を作っていってもらうことを願う。</p>	<p>長期的には今の子ども達が各地域に住み続けてもらえるよう、まちづくりビジョンの「子どもを育てる環境や子どもが学ぶ環境が整備され、『子どもの学び』と『子育て世代』を応援するまち」を目指し取組を進めてまいります。</p> <p>学校選択制を活用されているケースの中には本来の選択制の趣旨から外れているものも含まれていることから、理由の把握、分析に努めるとともに、制度の趣旨に沿った選択がなされるよう、学校案内や説明会を始め、あらゆる機会において「地域や学校とのつながり」についても正しく発信してまいります。</p> <p>また、現在、港区の小学校の適正配置については、中・長期的な児童数の推移を慎重に見極める必要があります。この増加が見込めないと明らかになった場合は、適正配置計画の策定を行うこととしています。これに併せて、引き続き単学級解消策についての検討を進めることとしています。中学校については「大阪市立小学校 学校配置の適正化の推進のための指針」には対象となっていませんが、小学校に併せて必要な検討を行ってまいります。</p> <p>また、学校の在りようについては委員のご意見のとおり、区内の小・中学校が「教師も子どもも伸びる学校」であるよう、区長が区担当教育次長として分権型教育行政を推進しながら</p>

		ら、学校を支援してまいります。
--	--	-----------------

防災・防犯部会（令和元年度第2回：令和元年11月8日開催）

番号	意見	区役所の対応・考え方
	<p>今年の集中豪雨で、福祉避難所の半分は水没し機能しなかった。機能している残りの半分に移動したかったが、断られてしまったという事案があった。今後は、そういったことも想定する必要があるのではないかと考えている。また、寝たきりの方の受け入れを医療対応ができないことから避難所が拒否した例もあった。医療対応ができないのはよくわかるが、今後は、被災地から遠隔地への移送対応も必要になってくるのではないかと考えている。また、大阪みなと中央病院には、会議室や広いスペースもあるので、福祉避難所を開設し、いろんな連携ができないかと期待する。</p>	<p>浸水している状態での移送については、船舶やヘリコプターを使用することとなり、消防、自衛隊など関係機関の協力、連携のもと行うこととなります。大阪みなと中央病院を福祉避難所とすることは、当該病院が災害時の地域医療を中心的に担う拠点病院となるため難しいと考えますが、災害時の連携について1つ1つ取組を具体的に積み重ねて連携を深めていきたいと考えており、現在、災害時に必要となる医薬品を、ローリングストック方式で備蓄することについて取組を進めています。</p>
	<p>LINEでつながる先をどういうところまでを想定しているのか。たとえば、港区障がい者地域自立支援協議会がつながることができれば、福祉避難所の開設状況や現状をいち早く把握することで、要援護者の方の受け入れの協力ができないかと考えている。</p>	<p>災害時のLINEの活用については、今年度から、一般に使われているLINEを活用して、区災害対策本部と地域災害対策本部の間での情報伝達の取組を始めたところです。一般のLINEを活用していることから、セキュリティの関係で個人情報のやり取りをしない運用としておりますが、地域災害対策本部以外との間の情報伝達についても、検討をしていきます。</p>
	<p>港区のエリアの特性として海と川に囲まれており、災害時に弱点ともなるが、災害後は人や物資の移動に大阪港・弁天埠頭を有していることから陸上ルート以外に海上ルートが使えるのが特徴とされている。この点についてどう考えているのか。</p>	<p>港区は、岸壁として船をつけられる場所が多いので、ご指摘のとおり災害後にはメリットとなると思っている。阪神淡路大震災時も最初に水を届けたのは大阪市港湾局の給水船であった。船の活用については、事業者との皆さんとも話し合っていきたい。</p>

	<p>災害弱者にとって、電源確保が優先される。電源確保についてどう考えているのか。船も非常電源として活用できる。</p>	<p>区としても災害時の電源確保は重要であると認識しており、区独自に各地域の避難所となる小学校に発電機を配備してきたところです。避難所における電源確保については、危機管理室とも連携しながら、今後とも一層の充実に向け取り組んでまいります。</p>
	<p>港区には神社の祭りなどを通じ豊かなコミュニティが存在する。災害時も災害後も助け合いなどにおいてコミュニケーションがとりやすい。その点についてご意見をうかがいたい。</p>	<p>ご意見のとおり、港区には地域の強い絆があり、また、地域活動協議会をベースとした自主防災組織が全地域において積極的に防災活動に取り組んでいる。引き続き、区として、地域の強みを活かした防災の取組を支援してまいります。</p>
	<p>大阪港には多くの船舶が、係留、往来している。津波来襲時にはそれらが水門なども船がぶつかって役に立たないことが気になるが、どのように考えているのか。</p>	<p>ご意見のとおり、港町には、そのような宿命的なリスクがあり、それを完全にゼロにするのは不可能に近いことです。万が一、船がぶつかって防潮堤が壊れるリスクはあります。リスクを知り、リスクを織り込んで対処を考えることが大事と考えています。区としては、そのような事態も想定して、津波避難ビルの確保に努めるとともに、津波来襲時には垂直避難が必要であることの啓発に取り組んでいるところです。</p>
	<p>中学校の体育館にエアコンを設置するということだが、津波来襲時の防水設備があるのか。</p>	<p>津波来襲時に港区の体育館のエアコンが使えるかと言えば難しいと思います。今回の体育館へのエアコン設置は、津波災害時のみを想定した設置ではなく、台風時や直下型地震、その他災害に対応したものです。なお、エアコンは市内全市立中学校の体育館に設置されていきますので、津波来襲後、港区民が区を越えて非浸水区に避難した時には、そこの体育館のエアコンを利用できるという面もあります。</p>
	<p>港区が水に浸かった時、ヘリコプターが使える建物がどれくらいあるのか。</p>	<p>いわゆる航空法に定められるヘリポートは港区にはありませんが、高層建築物で火事等の緊急時に消防防災ヘリなどが救助活動及び消火活動に利用するための緊急離着陸場や緊急救助用スペースが屋上に設けられているもので区役所が確認しているものは、マンション3カ所（含む低層階オフィス・店舗）、ホテル1カ所、病院1カ所です。なお、災害時用のヘリポートは磯路中央公園の一カ所あります。</p>

<p>43号線のバリアフリー対策であるが、車いすが利用できる43号線の横断用のエレベーターはどうなっているのか。</p>	<p>国道43号線の弁天町駅前交差点地下道については、中央大通を挟んで南北に2か所あるが、それぞれの地下道にエレベーターを設置する方向で、道路管理を所管する国土交通省大阪国道事務所において、現在、実施設計を行っています。エレベーターの整備内容や完成時期については、具体的な内容が固まり次第、改めて報告させていただきます。</p>
--------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------